

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成22年12月15日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200040		
法人名	有限会社モリモト		
事業所名	グループホーム田尻の里		
所在地	福岡市西区大字田尻1520番地		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年12月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念のもとに、利用者の方が安心安全に日々を過ごされ、障害を有されていても、支援のあり方を大切に考察して実践することによって、生活の質が個々に保たれて継続していけるようなサービスの提供に努力しようとしていること。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成19年1月に開設された“グループホーム田尻の里”は、隣接する森本医院との医療連携により、医師、看護師等による細やかな健康指導、健康管理が行われている。ホームの玄関を挟んで北と南のユニットに別れ、開設以降、ご利用者の心身状況に合わせて、ユニット毎に独自性を活かしたケアが行われてきた。職員の入れ替わりを機に、22年9月より、3B体操等の合同行事の開催が始まり、交流を通して賑やかな時間を過ごして頂いている。毎月の行事でも、バスハイクや季節の花見、外食やショッピング等、戸外で過ごして頂く機会を積極的に作る取り組みが行われている。また、22年1月より、ご利用者の誕生月には、ご本人の望みを叶えようとする個人支援の企画が本格的に開始され、故郷を訪問したり、親戚が経営するお店に出かけて食事を楽しんで頂くなどの支援が行われている。ホームは海や山に近い立地条件ということもあり、産地直送の食材を採り入れたお食事も、ご利用者の楽しみの一つとなっている。ご利用者主体のケアを行うという基本方針は、職員全員の共通認識として継続し、“その人がその人らしくあること、そして生きがいを持って頂くこと”を目指し、日々取り組みが行われているホームである。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の保育園児、ボランティアの方など受け入れ、地域の一員として、職員、利用者ともども担っていくようにしている	安心、安全、安楽な生活環境を提供するために、ご利用者との日々の関わりを大切に、ご利用者の立場に立った視点でのケア、当事者意識を職員が更に理解し、深めるための指導が続けられてきた。また、尊厳ある生活者としての「いきがい」を大切に、地域でその人らしく生きがいを持って暮らしていけるような支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児が毎月見えて、交流体制を継続している	地域のサークル活動の発表の場として、ホームを活用して頂いたり、研修の場として、公民館を活用させて頂いている。ご利用者は、月1回の保育園児による訪問を楽しみにされており、運動会の見学に行く等の交流が行われている。地域の文化祭に“田尻の里コーナー”を設置して頂き、ご利用者の作品を展示させて頂いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	森本医院の患者さんの相談なども受け入れたり、地域の方の相談に応じたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	次年度から、行政参加を前提とし、定期的な開催も含めて、この案件に資するよう再構築し、利用者参加も含めていく予定にしている	町内会長や地域の介護事業所の方、地域包括支援センターの職員、ご家族の参加で、2～3か月に1回開催している。ユニット毎にケアの方針を報告し、事故状況や看取り介護の方針等についても報告が行われている。自己評価・外部評価の結果も報告し、課題についての協議が行われている。	法が示す専門性や、理想的諸施策が、一般生活上の価値観からかい離、もしくは非関心であることもあって、特に議題として挙げていく内容に限界を感じていると管理者は考えている。地域との連携を図る上でも、行政の方に参加頂き、定期的に会議を開催する予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの問い合わせ、こちらからの疑問などに関して、必要時は問い合わせをしている	市の介護保険事業者協議会に加入し、研修計画等について、担当者と連携を図っている。また、地域包括支援センターに、運営推進会議に参加して頂いている。生活保護受給者の入居相談に応じたり、生き生きセンターからの問い合わせにも対応するなどの連携が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の拘束に関しての理解にばらつきがみられるが、物理的な拘束実施の事実はない	管理者は、身体拘束をしないためにも、見守りの強化だけではなく、ご利用者との日々の関わりを大切に、信頼関係を構築しておくことの大切さを職員に伝え続けてきた。全身掻痒感による掻き傷の悪化防止と、オムツはずしによる行為で夜間不眠を防止するため、ご家族も含めて協議し、夜間のみ、つなぎ服の着用を行っている。	職員手作りの胴体着を何種類も試したり、別の皮膚科を受診したり、薬用の無添加シャンプーを使用する等、様々な試みが行われてきた。現在夜間のみつなぎ服を着用頂いているが、どうにか着用しないで対応する方法を、今後も検討していく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、マニュアル等に基づく、スタッフの良識に任せであり、今後もっと具体的に学ぶ機会が必要となる課題である		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を受けており、報告書もあがっているが、内部全体で学ぶ機会はまだたれていない、現在、後見制度を活用する必要性のある方はいない、	職員は、地域福祉権利擁護、成年後見制度に関する社協主催の外部研修に順番に参加している。研修会に参加できなかった職員にも資料を配布し、内部研修を行い、職員の制度に関する理解を深めている。説明用のパンフレットを基に、入居契約時に制度について説明を行い、現在1名の方が成年後見制度を活用されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際、重要事項などで説明し、理解いただいている。その際、ご家族の不安や疑問点を聞き、分かっていただけ的心がけている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族の意見・要望は、日々のケアに活かせるよう努めている、その際、改善したことについて、家族に報告連絡を密にしている	ご利用者の日頃の状況を“田尻の里たより”でお知らせし、ご家族面会時や電話にて、ご意見を伺っている。ご家族から頂いたご意見は、月2回の担当者会議で協議し、職員ミーティングで話し合っって運営に反映させている。「人によって報告の内容が違っている」と、ご家族から意見を頂き、受診報告書が作成された。	ご意見箱など、匿名による発言環境の整備があってもいいと考え、記入用紙について検討が行われている。より多くのご家族から、ご意見を頂けることを期待していきたい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や、話し合いがある場合、時間を作ろうとする機会を日常的に行っている	管理者は、職員の意見を真摯に受け止め、全員で話し合い、運営に活かせるように、意見を言いやすい環境作りを心がけている。管理者による、個人面接も行われている。職員の意見を基に、“田尻の里たより”の書式変更や研修の仕方等について等、多くの意見を頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を来年度から実施導入できるように計画中、職能評価に見合った、賃金体系の再構築も含めての検討課題としている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集の際、年齢、性別、資格の有無で排除するようなことはしていない。働きやすい、職場づくりを心掛けている	面接に時間をかけて、ホームの理念に共感して下さる方を採用している。働きやすい職場作りを心がけ、職員の能力や得意な事を活かして、職員のお力を現場で発揮してもらっている。職員の資格取得に向けて、休みは極力希望に応じ、研修等への参加は、勤務調整をしたり、テキストの購入等の支援が行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの理念に示されており、現場で問題のある接遇がみられた際は、当該職員への指導にあたり、インシアクシ報告として、全員が具体事例として活かすようにしている	人権擁護は当ホームの最高理念であり、ホームの理念、職員に求められる原則10か条の中にも、“尊厳”という考えが入っている。“人の痛みを感じられること、当事者意識を持つこと”を管理者は伝え続けている。今後も引き続き、職員と“人権”に関する理解を深め続けていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、職員の不足している知識、技術を補い、スキルアップできるように進めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は行っているが、職員は行っていない		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の気持ちを大切に、不安なことはケアプランに盛り込み、解決を図るとともに、コミュニケーションをとって望ましい関係を築くよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接、契約とその都度、要望等を確認し、関係が築かれるような環境づくりのための情報収集としても、意見要望の受け止め方を大切にしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、契約時など、必要なサービスを7見極め、提供するサービス可否判断も含めて、初期段階でホーム対応の分析をもつぱらとしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜切り、洗濯物たたみなどを一緒にして、力を合わせて生活しており、利用者を一方的な立場においていない		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多い家族とは、協力も仰いでいるが、そうでない家族とは、本人を支える関係を築けていないところがあると思う		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	場所柄、馴染みの方が見えると難しい面もあるが、電話など通信手段で関係が途切れないように配慮支援している	ご利用者の馴染みとされていたこと等、普段の会話の中やご家族にお聞きし、ご利用者が望まれる支援を職員で話し合っている。ご利用者の誕生日には、個別の支援として、出生地の神社や市場を訪ねられたり、ご家族の送迎で墓参りに出かけたたり、ご本人の馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い関係を考え、関わりあうようにしている。不安定な利用者には、スタッフが介在して対応、事前にトラブル回避を心がけたケアを提供している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所者、入院利用者の方への定期面会や、利用者さんも参加しての訪問を大切にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実施している。意見表出が難しい方には、家族へ確認させていただくなども含め、臨機応変な対応に努力している	職員は、ご利用者との普段の会話やご利用者同士の会話の中から、「どのようにしたい、どうしてほしい」という、ご利用者の思いや意向を把握するように努めている。把握が困難なご利用者も、お一人お一人とのスキンシップを大切に、ご家族申告用アセスメントシートを活用し、若い頃の状況や趣味等を把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや本人からの話、面会時の家族との話から、どのような生活をなさってきたか、把握するよう心がけている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態に合わせて、無理なく過ごしていただけるよう、工夫努力している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で検討しあった個人カンファレンス内容を計画書に反映させている、今後、もっとモニタリングに努めて、効果検証、課題提起の視点を掘り下げるものにした	ご利用者、ご家族、主治医からも意見を頂き、“地域で暮らす”という視点で計画に反映するように努めている。また、ご利用者、ご家族の要望や状態に変化が生じた場合や、新たな気づきや意見が出された場合は、それらを計画に反映させるために、臨機応変に計画の見直しを行っている。	ご家族がホームに来訪された時に、ケアプランへの意見を伺っている。頂いた意見は記録に残し、計画に反映するようにしているが、個別に面談の時間を取り、更にも多くのご意見を頂きたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から、職員間で情報を共有し、介護計画に活かせるよう努力している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応が無理な場合、職員の数を増やして、対応している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地産地消といった、地域の資源を利用者に提供し、安全に暮らすことができるよう努めている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅支援医療制度を利用し、協力医療機関と連携を保持している。他科受診の場合、職員が付き添い対応に努めている	協力医療機関に毎週の定期的な往診・健康チェックをして頂いているので、ご家族と相談し、納得の上、協力医療機関に変更された方もおられる。かかりつけ医・協力医療機関ともに、いつでも相談できる関係にあり、24時間体制の対応が出来るようになっている。受診結果は、報告書に記載し、その日のうちにご家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時、受診時、利用者の情報を伝え、適切なケアにつなげることが出来るように努めている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、定期的面会や見舞を継続し、利用者との関係保持、安心樹立に努めるとともに、主治医、看護職から情報を求め、早期に退院できるよう利用者の生活の質の保持に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における、早い段階での話し合いはしている	入居時に24時間体制で、医療アプローチが必要な場合の看取りケアは困難だが、ご家族の希望、協力の状況、サービスの提供体制の可否等によっては、看取りケアは可能と管理者は考え、今年1名の方の看取りが行われた。重度化しないよう健康管理に配慮すると共に、心身状況によっては、必要時、紹介状を書いて病院を紹介する等の対応も丁寧に行っている状況である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命講習で応急手当を身につけ、緊急時のマニュアルを用意している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の要領等、災害時の基本的対応の要領については部内にとどまるばかりである。地域連携については今後の課題である	災害マニュアルを作成し、ご利用者と職員による火災発生時の初期消火、通報、避難誘導訓練が行われている。災害時に備え、3日分の非常食セットの準備もされており、隣接する母体医院を避難先として、具体案の検討が行われている。医院には火災時の救護活動などの連携をお願いしている。	気候の変動などによる水害や地震など、自然災害に対する地域連携やルール作りに関係者の意見を集約する等、運営推進会議を中心に次年度推し進めていきたいと考えている。ご利用者、ご家族が安心して暮らせるための安全の確保に向けた取り組みに期待していきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	無意識で、利用者のプライバシーを損ねるような言動も見られるので、今後の課題の一つと考えている	ご利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言動や行動をしていないか等、反省点を踏まえ、毎月1回、各ユニット毎に話し合いをしている。排泄や入浴の際の声かけも、さりげなく耳元でお誘いする等、ご利用者の羞恥心への配慮も行われている。	無意識でプライバシーを損ねるような言動が見受けられる時があり、今後の課題として、意識して取り組んでいきたいと考えている。更なる取り組みに期待していきたい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が行きたいところ、したいことなどを聞いて、可能な限りその思いを受け止めるよう努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	シフト上の制約があるが、利用者中心に日々が過ぎていくような支援を大事に考えている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時、入浴で着替えの際、どの服を着たいか確認したり、家族からの要望で訪問美容に来てもらったりしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、盛りつけたり、利用者のできることを最大限に活かすよう努めている	ホームの菜園で採れた野菜も含め、野菜を多く使った食事が提供されている。回転寿司の機械を持ち込まれるお寿司屋さんに、ホームへ来て頂き頂いたこともあり、回転しているお皿を自ら上手に取られ召し上がられた。また、職員はご利用者より糸島料理等の郷土料理を教えて頂き、ご利用者に喜んで頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の病歴や体重など身体面に考慮している。お茶を飲む時間を設け、飲水量の少ない方には、こまめに飲水していただくよう心がけている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には、食後、声かけをし、介助の必要な方には毎食後、口腔ケアの介助支援を行っている。定期的に訪問歯科の受診も心がけている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常日頃から、排せつの確認をし、トイレで排泄できるようケアを心がけている	職員は、ご利用者一人ひとりの排泄表を作成し、ご本人の習慣や排泄パターンの把握に努めている。ご利用者の表情や様子を見ながら、そっと寄り添い、トイレでの排泄支援を心がけている。年々レベルが低下される中で、現状を維持できるよう支援が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や、食事に繊維質のものを採用したり、入浴時にお腹のマッサージを促すなど、便秘予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順、入りたい回数など、利用者の希望を窺うように努めて実施している	ご利用者の望まれる入浴支援を行えるよう、職員は日曜日以外、毎日入浴の準備をし、介助が困難な方に職員手作りの介助具を製作して、2人体制にて浴槽にゆっくり入って頂いている。ご利用者の負担感や安全性も考慮され、管理者はリフト導入を検討されておられる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温管理、就寝前のホットミルクの提供など、安眠のためのサービスに心がけている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効も知ってもらうため、職員には、お薬手帳で確認してもらい、薬の重要性を認識できるように努めている		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、共に暮らしていく中で、利用者の好きなこと、できることを把握し、活動につなげたり、ケアプランに盛り込むようにしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出したい当日に、サービスを提供出来ない時は、後日、外出できるよう支援している	ご利用者の“美味しい刺身が食べたい、鰻が食べたい”等のお声をお聞きし、ドライブを兼ねてランチに行かれたり、ご利用者のご家族所有のイチゴ農園で新鮮なイチゴを食べに出かける等の支援が行われている。公民館主催の文化祭に出かけたりと、職員は日々の散歩以外の外出を可能な限り支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、安心される利用者が多いので、普段から買い物時に、必要な金額の支払いを楽しまれるよう努めている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜を除いて、いつでも電話できるよう支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、快適に過ごされるよう努めている	玄関やリビングには、ご利用者が手入れをされているという観葉植物が置かれ、リビングの天窓からは明るい日差しが差し込んでいる。ご利用者の健康に気づかい、除菌も可能な大型の空気清浄機が各ユニットに設置されている。北ユニットでは、心身状況に合わせてリビングの畳を取り外し、ソファに座って、ゆったり過ごして頂けるような配慮も行われていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での、一人になれるスペースは確保できていない		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家に居るころから、使っているものを持ってきていただき、ホームでの生活になじみやすいように努めている	ベットやエアコン、照明は備え付けになっている。入居の際、ご自宅と環境の違いを感じられないようにと、カーテンの色やデザインはご本人、ご家族の意向をお聞きし選んで頂いている。寝具や筆筒、鏡台、写真、絵画など持参され、ご本人が過ごしやすいお部屋作りをされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器でも、車いすでも移動できるように、障害物の除去をするなど、安全な動線確保に努めている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	サービス提供状況に関しての相談・要望・苦情等の関係者からの意見そのものについて、もっとお寄せしやすい事業所環境を再構築すべき余地がある。	利用者等側の心情理解に努めるため、例えば御意見箱の設置や、定期的アンケート(先方希望による記名、無記名式選択方式)の実施、または、家族会の設立など。	主に、左記による方法の内、とりあえず、意見箱について早速、新年度以降予定する。順次、アンケートの定期実施体制や、アンケートを通じての家族会設置の是非について意見集約後、検討していく。	6 ヶ月
2	37	災害対策について、不安が大きい。	マニュアル等作成して、最小限の備えはしているものの、意識啓発は今少し綿密に高める必要がある。消防以外の、地震・風水害等の対策について、地元関係者・機関等の協力体制が不可欠。	運営推進会議をメインにして、消防署等の関係機関あて地域活動をしなければならない。少なくとも、避難先の確保、マンパワーの確保、食料やライフラインの確保など、専門的見地を詰めていく打診を重ねたい。	12 ヶ月
3	4	運営推進会議の開催状況が不十分、もしくは、消極的(構成員相互において)な現状であるが、一般的検証で終わりがちな実態や、当該会議の限界もあって残念である。	行政参加を今少し積極的にしていきたい。また、構成員の関心を高めていただくために、毎回の議題項目や焦点を、事前に事業所側が練り上げているものにしたい。	管理者のみならず、スタッフが相互に係りある有機的会議に持ち込みたい。	6 ヶ月
4	28	優先順位1番の改善事項にも係るが、サービス提供に関する質の向上に向けて、御家族等がもっと介護計画に関心を持って頂く必要性も感じている。	介護計画の作成・モニタリング・変更等一連のケアプラン情報の説明・同意等について、さらに綿密にしていくためには、御家族の関心も今少し持たれる必要がある。そのためには、介護を協力関係の視点で、御案内に努める必要を感じている。	御家族様からの介護計画への意見の反映については、法が定める手順履行に努めているが、ケア提供に際する様々なケースに絡む専門的理解については至れず、形骸化している部分もある。密着した協力関係のもとに、有用な係り合いを求めたい。	6 ヶ月
5	38	人格の尊重とプライバシーの確保に資するサービスの提供状況について、一部の職員に及んでいない一面を認めている。理念に派生する当該尊厳価値なくして介護事業の正当性はないことを、スタッフ共有の職業倫理感として醸成に努めるべき事。	基本的には全スタッフがその意味理解に及んでいる。ただ、輻輳する業務履行時のマンパワーの確保が薄い局面時、管理的遂行で無意識的に侵害してしまうこともある。再発防止取り組みの継続。	個々のメンバーに対する、チーム共有の職業的価値観として、相互に注意し合うこと、常に、相互に配慮し続けるべき事。ユニット会議で、常に履行状況を確認し、意識啓発に努め続ける事。	1 ヶ月

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
6	6	身体拘束防止について、ケースによっては緊急回避的措置に甘んじてはならないこともあり、コンプライアンスに努めた家族理解の上を実施したケースがある。常に甘んじない認識共有を堅固に保持し合うべき事。	ケアの提供目標には、安全確保、安心確保、安楽確保の順に、その理想的位置づけを認識。安易な介護の提供というのではなく、責任をとれる介護提供状況の能力に比する、まず安全確保として例外的に取りえることを再認識して、その防止に努める。	本人の健康維持、衛生維持等、認知症からもたらされる不潔行為へのケアで、見守り等が確保できない時間帯に、一部抑制方法を採択した。しかし、提供担当者会議で、履行状況を確認しながら、善処の姿勢をうしなわないこと。	1 ヶ月
7	1	理念の共有と実践で、関係スタッフ全員の質が同等でない点。また、地域密着事業推進上の理念実践において、まだまだ組織的に未成熟な理解程度でしかないこと。	継続事案として、日々の運営で相互に認識を持ち続けるべき事。	利用者、その家族および関係者、並びに地域関係者等に対して、事業所運営が社会的に資するものであるために、業務使命のみならず、広く人間尊重の姿勢を失わない意識啓発を継続し続ける。	12 ヶ月
8	2	事業所と地域の付き合いについて、双方が歩み寄り関係にはなかなか、その緊急性も必要性も認められない状況であること。	左記に掲げる事案は、互いに生活感覚がやむにやまれぬ関係でもないことに起因している。事業所の地域に対する貢献を、地味に探し続けたい。	運営推進会議でも出たが、当該地域では、人様に迷惑をかけないという不文律があり、過ぎた事は控えるという美意識を理解している。しかしながら、事あれば、いつでも地域の一員たる貢献を失わない。	12 ヶ月
9	5	市町村との連携	ほぼ、連携が出来ていない、というよりも、必要事項以外、そのニーズさえ感じない。地域密着事業である以上、関係する行政関係者あて、せめて運営状況等開示できる活動が必要と認識。	運営推進会議席上で、行政関係者と情報交換を保ち、常に連携する重要性を再認識する。	1 ヶ月
10	11	職員意見の反映について、キャリアパス概念も含めて、今少し専門的システムを構築したい。	正しい、望ましい人間関係理解と、評価。	これまでも職員の意見は取り上げ続け、反映させてきている。事業本来の社会的使命に適うよう、運営に資するスタッフの醸成に努め、事業所理念を共有し合える地域の一員でありたい。	6 ヶ月
11					ヶ月